

安藤 洋子
yoko ando

私の住む東北には春から晩秋までいろいろなナラタケの仲間が発生します。従来は一種とされていたナラタケが近年多くの研究者の方々によって何種類かに分けられたので、自分の経験と照らし合わせながら、それらのナラタケ類についてまとめてみました。

世界のナラタケ類 36種 (『A Nomenclatural Study of Armillaria species』1995より)

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 <i>Armillaria affinis</i> (Singer) Volk & Burdsall | ・和名なし(中米・カリブ) |
| 2 <i>Armillaria borealis</i> Marxmuller & Korhonen | ・和名なし(ヨーロッパ) |
| 3 <i>Armillaria calvescens</i> Berube & Dessur. | ・和名なし(北米) |
| 4 <i>Armillaria camerunensis</i> (Henn.) Volk & Burdsall | ・和名なし(アフリカ) |
| 5 <i>Armillaria cepistipes</i> Velen. | ・クロゲナラタケ(日本・ヨーロッパ・北米?) |
| 6 <i>Armillaria duplicata</i> (Berk.) Sacc. | ・和名なし(インド) |
| 7 <i>Armillaria ectypa</i> (Fr.) Emel | ・ヤチヒロヒダタケ(日本・ヨーロッパ) |
| 8 <i>Armillaria fellea</i> (Hongo) Kile & Watling | ・和名なし(オーストラリア) |
| 9 <i>Armillaria fumosa</i> Kile & Watling | ・和名なし(オーストラリア) |
| 10 <i>Armillaria fuscipes</i> Petch | ・和名なし(インド) |
| 11 <i>Armillaria gallica</i> Marxmuller & Romagn. | ・ワタゲナラタケ(ヤワナラタケ)(日本・ヨーロッパ・北米) |
| 12 <i>Armillaria gemina</i> Berube & Dessur. | ・和名なし(北米) |
| 13 <i>Armillaria griseomellea</i> (Singer) Kile & Watling | ・和名なし(南米) |
| 14 <i>Armillaria heimii</i> Pegler | ・和名なし(アフリカ) |
| 15 <i>Armillaria hinnulea</i> Kile & Watling | ・和名なし(オーストラリア) |
| 16 <i>Armillaria jezoensis</i> Cha & Igarashi | ・コバリナラタケ(日本) |
| 17 <i>Armillaria limonea</i> (G.Stev.) Boesewinkel | ・和名なし(ニュージーランド) |
| 18 <i>Armillaria luteobubalina</i> Watling & Kile | ・和名なし(オーストラリア) |
| 19 <i>Armillaria mellea</i> (Vahl:Fr.) P.Kumm.
(<i>Armillaria mellea</i> subsp. <i>nipponica</i> Cha & Igarashi) | ・ナラタケの基準種(ヨーロッパ・北米・アジア)
ナラタケ |
| 20 <i>Armillaria melleo-rubens</i> (Berk. & M.A.Curtis) Sacc. | ・和名なし(中米) |
| 21 <i>Armillaria montagnei</i> (Singer) Herink | ・和名なし(南米・欧州) |
| 22 <i>Armillaria nabsnona</i> Volk & Burdsall | ・ヤチナラタケ (日本・北西米) |
| 23 <i>Armillaria novae-zealandiae</i> (G.Stev.) Herink | ・和名なし(南半球) |
| 24 <i>Armillaria omniuens</i> (Berk.) Sacc. | ・和名なし(インド) |
| 25 <i>Armillaria ostoyae</i> (Romagn.) Herink | ・オニナラタケ(バナラタケ)(アジア・北米・欧州) |
| 26 <i>Armillaria pallidula</i> Kile & Watling | ・和名なし(オーストラリア) |
| 27 <i>Armillaria pelliculata</i> Beeli | ・和名なし(アフリカ) |
| 28 <i>Armillaria procera</i> Speg. | ・和名なし(南米) |
| 29 <i>Armillaria puiggarii</i> Speg. | ・和名なし(南米) |
| 30 <i>Armillaria sinapina</i> Berube & Dessur. | ・ホテイナラタケ(日本・北米) |
| 31 <i>Armillaria singula</i> Cha & Igarashi | ・ヒトリナラタケ(日本) |
| 32 <i>Armillaria sparrei</i> (Singer) Herink | ・和名なし(南米) |
| 33 <i>Armillaria tabescens</i> (Scop.) Emel | ・ナラタケモドキ(日本・北米・ヨーロッパ) |
| 34 <i>Armillaria tigrensensis</i> (Singer) Volk & Burdsall | ・和名なし(南米) |
| 35 <i>Armillaria viridiflava</i> (Singer) Volk & Burdsall | ・和名なし(南米) |
| 36 <i>Armillaria yungensis</i> (Singer) Herink | ・和名なし(南米) |

和名・学名のある日本産ナラタケ類10種

1. クロゲナラタケ *Armillaria cepistipes* Velen.クロゲナラタケ *A. cepistipes* 1998.10.12 桑沼胞子 ×2000 H₂O

- ・ブナ・ミズナラ倒木上。
- ・傘の径、4～6 cm、色は褐色。傘に帯赤褐色～黒褐色の細かい繊維状の永続性の鱗片を全体に密に付着する。条線は比較的明瞭で、湿ったときしばしば著しい粘性を表す。(条線が不明瞭なタイプもあるという。)肉は白色であるが、表皮近くで淡紅色を帯びる。
- ・ひだはしばしば湾生～多少垂生し、密～やや密。淡褐色を帯びた白色であるが黒褐色に変色しやすい。
- ・つばは白色、繊維状～綿毛状で消失性。灰色～帯黄色の細かい綿毛状鱗片で縁取られる。
- ・柄は長さ4～6 cm×6～12 mm、下方に向かってやや膨らむ。表面ははじめほぼ白色、のち、やや他紅色を帯びた褐色で上方は灰白色の綿毛状鱗片でおおわれ、中実であるが中に細い空洞があることがある。
- ・柄の基部に付着する根状菌糸束は細く、通常1 mm以下。
- ・担子器の基部にクランプをもつ。胞子紋クリーム色。胞子の大きさ7.1～9.2×5.1～6.3 μm。
- ・タマウラベニタケを侵害することが知られている。

※ここで説明した黒色タイプのほかに、傘が白っぽい白色タイプが存在する。

2. ヤチヒロヒダタケ *Armillaria ectypa* (Fr.) Emel

- ・湿地に単生または束生。
- ・傘は4～8 cmまんじゅう形から平らに開き、のち反り返る。傘には強い粘性がある。はじめ暗褐色の微細な繊維状鱗片が密生し全体に黒っぽい、のち鮎色～淡黄土色で中央に鱗片を残す。
- ・ひだは直生またはやや垂生し、淡黄色、やや疎、しばしば2分岐する。
- ・つばはない。
- ・柄は5～14 cm×5～12 mm。下方に向かって膨らみ、繊維質、中空。
- ・胞子紋白色。胞子の大きさ7.5～10.5×5～7 μm。
- ・日本では尾瀬で故小林義雄博士によって初めて報告されたきので、その後 青森からの報告しかなく、日本での発生が疑問視されていた種であるが、1996年に青森で再確認された。

3. ワタゲナラタケ(ヤワナラタケ) *Armillaria gallica* Marxmuller & Romagn.ワタゲナラタケ *A. gallica* 1998.10.11 生田緑地

- ・雑木林・人工林の腐植土上、草地。
- ・傘の径、5～10cm、色は通常淡橙褐色～明褐色、稀に黄褐色～褐色で、傘に脱落し易い柔らかい綿毛状～繊維状またはささくれ状の鱗片を散在する。鱗片は暗緑褐色～暗褐色、幅は基部で1mmに達し、傘の中央で密。傘の縁にしばしば白～帯灰色の皮膜の名残りを付着し、幼時とくに顕著である。一般に湿っている状態のときやや粘性があるが、著しいものではない。周辺の条線はやや不明瞭。
- ・ひだは直生状垂生～垂生し、密～やや疎。帯淡褐色で、しばしば柄の上部と同様淡橙色～ピンク色を帯びる。
- ・つばは白色、蜘蛛の巣状～多少綿状～繊維状～多少膜状で消失性～柄に圧着する。初期において帯緑黄色～暗オリーブ色に縁取られていることがある。
- ・柄は7～10cm×6～9mm、基部でしばしば著しく肥大し黄白色の菌糸でおおわれる。上方に向かってほぼ円柱状、幼時帯黄色の脱落しやすい皮膜の名残を付着する。柄の基部にはしばしば太い根状菌糸束が付着する。色は、つばより上部は淡褐白色、下部は褐色で下方で黒褐色となり内部は海绵状。担子器の基部にクランプをもつ。
- ・オニノヤガラと共生し、タマウラベニタケを侵害することが確かめられている。
- ・ミシガン州で発見されたものは15haの広がりを持ち、100トンの重量があり、1500年生き続けていることが明らかになったという。

4. コバリナラタケ *Armillaria jezoensis* Cha & Igarashi

- ・ハルニレなどの腐朽木上。
- ・傘の径4.7～6.8cm。はじめ半球形で、のち平らなまんじゅう形。表面の色は暗黄褐色～汚赤色を呈し、全体に褐黄色～暗赤褐色の小針状の鱗片を密布する。粘性はない。傘の縁は始め内側に巻き、のち平らに開く。また傘の縁には白色膜状の付着物を付ける。
- ・ひだは湾生または垂生し、類白色～淡褐色の赤赤みがかった褐色、密。ときに波打ち赤い。
- ・つばは白色、繊維状またはやや膜状で、薄く壊れやすく、のちに消失または柄に圧着する。
- ・柄は3.9～6.1×0.7～1.1cm、棍棒状。下に向かって褐色で、繊維状。類白色の繊維が発達している。折れやすく、若いときは中実、のちずい状になる。
- ・ツチアケビ・オニノヤガラと共生し、タマウラベニタケ・オオミノミミブサタケを侵害していることが確かめられている。
- ・1993年に北大の車・五十嵐博士らによって報告された新種である。

5. ナラタケ *Armillaria mellea* subsp. *nipponica* (Cha & Igarashi)

図5-1 ナラタケの樹上生体



図5-2

- ・広葉樹の朽ち木・立ち木の根元。
- ・傘の径、3～7cm、色は黄褐色～暗オリーブ褐色～帯褐色で、中央部に細かい未発達の暗色の微毛状鱗片を密生する。新性はない。
- ・ひだは垂生～直生状垂生し、やや密またはやや疎、白色でしばしば黄色く縁取られるが、傘が黄色の子実体ではしばしばくすんだ黄色を帯びる。
- ・つばは白色で黄色い縁取りがあり、厚い膜質で永続性。条線がある。
- ・柄は長さ6～10cm×6～10mm、上下同大かまたは基部がやや膨れることもある。中央。
- ・表面は淡黄色、つばの下方に白～淡黄色のささくれ状鱗片を付着する。
- ・肉質は堅くてもろく、生のとき強い浸みがある。
- ・担子器の基部にクランプはない。子実下層の菌糸に単一の核が存在する。
- ・胞子紋白色。胞子の大きさ10～13.5×6～8μm、胞子は外国のものに比べてひとまわり大形である。外国産のものがヘテロタリックであるのに対して、日本産のものはモノタリックであることから、subsp. *nipponica* (新種) として区別された。さらにDNA分析によって異なるクラスターを形成することが明らかになっている。

6. ヤチナラタケ *Armillaria nabsnona* Volk & Burdsall

- ・湿地帯の広葉樹枯れ幹。
- ・傘の径、3～5cm、色は明黄色～明黄褐色、中央に圧着した暗緑色の繊維状鱗片を付ける。また、中央に尖った小突起を有する独特な特徴がある(稀に不明瞭)。傘には粘性があり、周辺に明瞭な放射状の条線を表す。傘肉は動く、傷みやすい。
- ・ひだは白色で、柄に直生～多少垂生し、やや疎。
- ・つばは白色で、繊維状～多少薄い膜状、消失性。
- ・柄は細長く5～8cm×3～5mm、下方に向かってやや膨らむ。上部はほとんど白色、下方に向かって黄褐色圧着した繊維状のささくれを生じるか、またはほぼ平滑。
- ・担子器の基部にクランプをもつ。
- ・1970年北アメリカから新種として報告された。
- ・食感は良く、味は上位にランクされる。(手塚氏談)

7. オニナラタケ(ツバナラタケ) *Armillaria ostoyae* (Romagn.) Herink

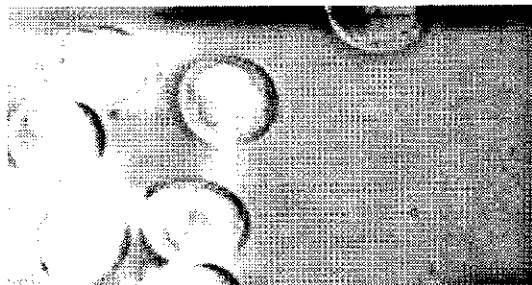
- ・広葉樹または針葉樹の切り株、立ち木の根元、東生。傘の径、5~15cm、色ははじめ明褐色~ベージュ色で、成熟すると帯赤淡褐色~暗赤褐色となり、黄色みは帯びない。全体に比較的大形で顕著な暗褐色のささくれ状~とげ状の鱗片を密に付着する。条線は一般に不明瞭で、また普通あまり粘性はない。
- ・ひだは直生状垂生~垂生し、密~やや密。白色でのち淡褐色の染みを生じる。
- ・つばは白色、膜質で厚く永続性。暗褐色~暗黄褐色の小鱗片で縁取られる。
- ・柄は長さ8~12×1~2cm、基部でやや膨らむかまたはほぼ上下同大。表面は褐色で、つばより下は少なくとも幼時褐色の綿毛状鱗片で密におおわれる。
- ・担子器の基部にクランプをもつ。胞子紋白色。胞子の大きさ6.4~7.9×4.8~6.9 μ m。
- ・根状菌糸束は帯状で二股分岐をしている。
- ・オニノヤガラと共生することが確かめられている。

8. ホテイナラタケ *Armillaria sinapina* Berube & Dessur.ホテイナラタケ *A. sinapina* 1998.10.12 桑沼 *A. sinapina*胞子 ×2000 H₂O

- ・腐朽木および周辺の土壤に群生から東生する。
- ・傘は1.5~10.5cm、はじめ半球形でのちまんじゅう形~平らなまんじゅう形。表面は淡褐色~赤褐色のちやや暗褐色を呈する。暗灰褐色~暗褐色のささくれ状鱗片を付着、粘性はない。鱗片は中央に向かってやや密。やや不明瞭な条線がある。
- ・ひだは類白色からのち淡褐色、湾生からやや垂生、密。
- ・つばは類白色の薄い膜質でやや永続性、柄に圧着する。
- ・柄は4.7~6.8×0.5~0.8cm。上部は白色の繊維状で、下に向かってやや淡褐色。上下同大で根元は球根状に膨らむ。肉は白色で柔軟。
- ・担子器の基部にクランプを持つ。胞子紋白色。胞子の大きさ6.7~10×4.9~6.9 μ m。
- ・根状菌糸束は、側生枝を出しながら円柱形の主軸を伸ばす単軸分岐である。
- ・ヨーロッパでは発見されていないが、アメリカ・カナダ・コロンビアなどに広く分布している。オニノヤガラと共生することが確かめられている。
- ・DNA分析では、クロゲナラタケと種の分化が完全ではないという結果が出ている。

9. ヒトリナラタケ *Armillaria singula* Cha & Igarashi

- ・湿った土壌、単生または散生。傘は2.5~3.8cm、はじめ半球形でのちまんじゅう形、中央がやや盛り上がる。表面は、淡黄色~黄褐色を呈し、暗赤褐色~暗灰色の繊維状の小鱗片を中央部にのみ密に付着する。著しい粘性はない。
- ・ひだははじめ白色のち淡褐色、直生からやや垂生、密。
- ・つばは白色の薄い膜質で、のち柄に圧着する。
- ・柄はつばより上部は白色~淡褐色の繊維状、下部は褐色~褐黄色で、傷つくと赤色~赤褐色を呈し、下部に向って太まる。肉は白色で柔軟。
- ・担子器の基部にはクランプをもつ。8~9月の比較的早い時期に発生する。
- ・胞子紋クリーム白色。胞子の大きさ $6.2\sim 10.6 \times 3.6\sim 6.2 \mu\text{m}$ 。
- ・根状菌糸束は側生枝を出しながら円柱形の主軸を伸ばす、単軸分岐である。
- ・オニノヤガラと共生することが確かめられている。

10. ナラタケモドキ *Armillaria tabescens* (Scop.) Emelナラタケモドキ *A. tabescens* 1994.9.9 高寺山

胞子 1000倍

- ・広葉樹・針葉樹の枯れ幹上、束生。傘は粘性なし。ひだは淡褐色、やや疎。
- ・つばはない。柄はほぼ上下同大。

学名が分からない(新種かもしれない)日本産ナラタケ

1. *Armillaria* sp. キツブナラタケ

- ・ブナ・ミズナラなどの倒木上、単生・束生・群生。傘の径、2~10cm、色は淡黄色~山吹色~帯橙黄褐色で、全体にとげ状の細かい褐色の鱗片を密に付着する。条線は短いと比較的明瞭で、湿ったとき粘性を表す。
- ・ひだは白色で、のちやや淡赤褐色になる。柄に直生し、密~やや密。
- ・つばは淡黄白色、薄い膜質で永続性。
- ・柄は長さ4~8cm、しばしば基部で急に徳利状に肥大する。表面は上部淡黄色、

キツブナラタケ *A. sp.*

- 下方に向かって淡黄褐色で、少なくとも幼時傘と同様の細かい褐色の鱗片でおおわれる。
- ・担子器の基部にクランプをもつ。
 - ・タマウラベニタケを侵害することが知られている。

その他の学名・形態・存在の不明な日本産ナラタケ類

1. ウスナラタケ *Armillaria* sp. (成田伝蔵・青森県のきのこ)
2. オオナラタケ *Armillaria* sp. (成田伝蔵・青森県のきのこ)
3. キナラタケ *Armillaria* sp. (成田伝蔵・青森県のきのこ)
4. 早生タイプ *Armillaria* sp. (高橋郁雄・北海道きのこ図鑑)
5. 中手タイプ *Armillaria* sp. (高橋郁雄・北海道きのこ図鑑)
6. 奥手タイプ *Armillaria* sp. (高橋郁雄・北海道きのこ図鑑)

参考資料

- ・ A Nomenclatural Study of *Armillaria* species 1995
- ・ 日本産ナラタケ (*Armillariella mellea*) の分類学的再検討 長沢栄史 1991年
- ・ 続北海道のキノコ 五十嵐恒夫著 北海道新聞社 1993
- ・ 青森のきのこ 工藤伸一他著 グラフ青森 1998
- ・ FUNGI OF SWITZERLAND vol.3 J.Breitenbach F.Kranzlin
- ・ Fungi of Southern Australia Neal L. Bougher Kayrina Syme
- ・ Les Champignons de France Courtecuisse
- ・ Biological… (車・五十嵐先生の論文) 日本菌学会報 1994
- ・ A note on… (車・五十嵐先生の論文) 日本菌学会報 1995
- ・ 北海道きのこ図鑑 高橋郁雄著 亜璃西社 1991
- ・ 青森県のきのこ 成田伝蔵 著 東奥日報社
- ・ きのこ100の不思議
- ・ 原色日本新菌類図鑑(1) 今関六也・本郷次雄著 保育社 1987
- ・ キノコ狩りガイドブック 伊沢正名・川嶋健市著 永岡書店 1990
- ・ コンパクト版6原色きのこ図鑑 印東弘玄・成田伝蔵著 北隆館 1986
- ・ 山溪カラー名鑑日本のきのこ 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編著 山と溪谷社 1988
- ・ 日本の毒キノコ150種 小山昇平著 ほおずき書籍 1992
- ・ 原色北海道きのこ図鑑 仁和田久雄著 総北海 1979
- ・ 熊本のきのこ 本郷次雄監修・熊本きのこ会編著 熊本日日新聞社 1992
- ・ 青森県きのこ雑学散歩 成田伝蔵著 東奥日報社 1991
- ・ 夢自然きのこ1 山と溪谷社編 山と溪谷社 1992
- ・ 夢自然きのこ2 きのこの目利き 山と溪谷社編 山と溪谷社 1993
- ・ Mushrooms and other fungi of Great Britain and Europe ROGER PHILLIPS Pan Books
- ・ Mushrooms of North America ROGER PHILLIPS Little, Brown and Company